

## 名古屋の環境・観光まちづくり

2008年6月、名古屋市に「名古屋の観光推進を考える研究会」が設置された。大学での研究教育が「評価」されたのか、わたしが座長に指名された。慣れない座長の「大役」にまごつきながら、2009年3月に研究会の提言・資料を報告書としてまとめた。せつかくの報告書ではあるが、残念ながら発行部数も少なく、ほとんど知られていない。環境と観光に関わる提案だけ紹介しておきたい。

2010年のCOP10開催に合わせて、観光政策の一つとして「都市型エコツーリズム」が求められる。2008年に「エコツーリズム推進法」が施行され、環境と観光の連携に注目が集まっている。「観光推進基本計画」でも、「都市における緑地の保全及び緑化の推進」、「大都市圏における自然環境保全」などが観光資源としても位置づけられている。名古屋市は「環境首都」を目指しており、観光政策においても環境を施策の一つとして位置づけたい。2010年は開府400年とともに、COP10開催という記念すべき年であり、「アーバン（都市型）エコツーリズム都市・名古屋」としても内外にアピールすることが求められる。

このように観光推進を考える研究会報告書のなかで、「アーバンエコツーリズム」を提案した。環境と観光を結びつけて、名古屋の魅力アップにつなげたいと考えたからだ。2010年には愛知・名古屋でCOP10が開催され、世界各地から環境の専門家や市民が名古屋を訪れる。2010年は名古屋開府400年という節目の年であるが、COP10開催に合わせて「アーバンエコツーリズム都市・名古屋」としてアピールしたいものだ。

大学で社会調査実習という科目も担当している。学部2年の学生がテーマを定め1年間かけて調査を行い、一冊の報告書にまとめるというハードな科目だ。最近では「観光まちづくり」というテーマで実習を行ってきた。今年には先の研究会の成果と関わらせて、「名古屋の環境・観光まちづくり」というテーマを設定

して、4月から学生と調査を進めてきた。なぜ、環境と観光なのか、それを名古屋で検証する意義について議論を重ねてきた。10月24日に豊橋の愛知大学で「社会調査インターカレッジ」があり、そこで次のような中間報告を行った。

環境省「エコツーリズム憲章」やエコツーリズム推進法などから、エコツーリズムの基本理念を明らかにして、名古屋の現状と可能性をさぐる。「環境首都」を目指す施策のなかで、2005年3月に開設された「なごや環境大学」の取り組みに注目したい。市民・行政・企業の「協働」により運営されており、NPOなど各種団体が実施する講座には4年間で5万人以上が受講している。環境大学事務局が実施したアンケートを再集計したところ、「環境行動に参加したい」が63.9%、「環境行動を自ら企画し、実施したい」が40.2%を占めており、受講者の環境意識の高さと意欲を示している。講座の屋外実習は「アーバンエコツーリズム」に近いものも多く、講座を通じてエコツーリズムの担い手が育成されつつある。

名古屋の「アーバンエコツーリズム」の可能性を探るために、藤前干潟、東山の森、そして町並み（白壁・主税・撞木地区と四間道地区）を調査した。「アーバンエコツーリズム」を考えるうえで、長年にわたる「藤前干潟を守る会」と「なごや東山の森づくりの会」の活動は貴重である。藤前干潟や東山の森といった大都市に残された自然、歴史文化と都市景観の町並みなど、名古屋にも「アーバンエコツーリズム」の可能性は十分にあるのではないか。

このような中間的な報告を行ったが、まだまだ不十分であり、これからも調査を続けていく予定だ。COP10開催に合わせて、環境・観光まちづくりについても関心が高まることを期待したい。

（中部の環境を考える会『環境と創造』No.27 2009年に掲載）